

動じない行動

昨日、人権書道展の進行担当者より、私の元に電話連絡がありました。先週金曜日に瑞浪市総合文化センターで開催された人権書道展表彰式において、本校の生徒の所属を「瑞浪中学校」と誤って読み上げたことに対する謝罪の連絡でした。

電話をくださった方は、ひどく恐縮していました。何度も何度も「申し訳ありませんでした」を繰り返していました。受賞した生徒や同席してくださった保護者の方にも大変失礼なことをしてしまつたと、ひどく悔やんでいる様子でした。本校からこの表彰式に参加した生徒は女子三名でした。一人目と二人目の表彰が順調に終わり、三人目のK・Yさんの番になったときにそのことは起こりました。

「多治見人権擁護委員協議会長賞……瑞浪中学校二年 K・Yさん」

進行担当者がこう読み上げたとき、私だけではなく、その場にいた多くの人がその間違いに気付いたことでしょう。受付で表彰録を受け取っていますし、彼女の身につけている制服は白いラインに白いリボンのセーラー服でしたから。しかし、会場はざわめくことなく、静かに表彰は進みました。K・Yさん本人も間違いに気付いてはいたでしょうが、決して慌てず、静かに椅子から立ってゆっくり前に進んで行きました。

表彰状の授与は、感染症対策として、進行担当者が代読する形で行われました。そのときにも、K・Yさんの所属は瑞浪中学校となっていました。

二度目の間違いにもK・Yさんは落ち着いていました。美しく礼をし、胸を張って表彰状を受け取りました。受賞だけではなく、そのとき彼女がとつた「動じない行動」を私はとてもうれしく思いました。

表彰式が終わってから、ある方が私にこう言われました。「学校名が間違っていたね。でも、それに動揺せず、堂堂と受け取った姿は立派だったね。落ち着いていたね。」

私もその通りだと思いました。後で確認したら、表彰録と表彰状は間違っていないませんでした。ということは、進行担当者の「うっかりミス」だとわかります。

だれも、ミスをしたくてするわけではありません。それを広い心で瞬間的に受け止め、その場の雰囲気や流れを大切にされた行動がとれたK・Yさんを、私は校長として誇らしく思いました。式後、彼女は付き添いのお父様と一緒に「ありがとうございました。式後、彼女は付き添いのお父様と一緒に「ありがとうございました。」という言葉だけを残して帰って行きました。」

(十二月八日 記)